

インドネシア活動報告⑮

株式会社マジオネット

JICA 青年海外協力隊 2016 年度 2 次隊

山口 麗子

【今月(5/20～6/20)の活動】

・チボダス出張 ・ブルクンバ出張

※今月(5/16～6/15)は、ラマダン(断食)期間であり、インドネシアの多くの学校や行政機関は就業時間が短縮されていた。また、ラマダン明け(6/15～6/20)もインドネシアの長期休暇期間となる為、他隊員の地域へ訪問しても活発な活動は出来なかった。出張以外は主にロンボクでの活動報告書や今後のスケジュールの作成、転居準備などを行った。

◎チボダス出張

6/4～6/7 は同期環境隊員のいるチボダスを訪問し、活動に同行させてもらった。隊員の任地は「グマンガデパングラゴ国立公園」で、普段は公園やその周辺地域にて環境教育を行っている。ラマダン期間ということもあり、外に出での活動はほぼないとのことだったので、今回は同期隊員の配属先にて状況視察や意見交換を主に行わせてもらった。また、公園が支援しているパプリカ農園への同行も行った。今回、同期の活動を見て話を聞く中で、自身よりも数多くのトライアンドエラーを繰り返していることを知った。大変強い刺激を受け、今後の活動への意欲につながった。



グマンガデパングラゴ国立公園



パプリカ農園にてプロジェクトについて意見交換しあう様子

◎ブルクンバ出張

6/11～6/14 は南スラウェシ州のブルクンバ県環境局で活動する環境隊員の元を訪問した。ブルクンバは空港のある州都マカッサルから車で5時間のところにある田舎街であり、これまでに訪問した他環境隊員の中ではロンボクに一番近い雰囲気であった。環境活動への取り組みはロンボクより進んでいるように感じた。今回は、他職種のスラウェシ隊員(助産師、コミュニティ開発)と共にごみ銀行と最終処分場、ADIWIYATA 取得学校を訪問した。

《ごみ銀行視察》

ブルクンバで最も成功しているという「Bank Sampah Mandiri」を訪問した。このごみ銀行は、環境



局の支援や民間企業、学校との協力も行いながら上手く活動の幅を広げていた。

《最終処分場視察》

ブルクンバとその周辺地域を対象としている最終処分場を視察した。規模はこれまで見た処分場の中では最も小さい規模ではあったが、コンポストの作成やごみから発生するメタンガスの利用をしており、捨てるだけでなくきちんとごみを活用、処理する場となっていた。また、悪臭や汚水対策も行っており、大変興味深い処分場であった。



最終処分場



落葉や剪定された植物などをコンポストにしている

《ADIWIYATA 取得学校訪問》

学校は休暇期間だった為、外から見学するだけであったが、外観を見るだけでも環境活動に色々取り組んでいる様子が伺えた。ブルクンバの環境隊員はこのような ADIWIYATA 取得学校を中心に巡回訪問を行っているとのことであった。写真のようにごみを 5 種類にも分けて分別している学校は初めて見たが、この分別されたごみが適切に処理されているのであれば本当に素晴らしいと感じた。(現状未確認)



【交通面について～市民の足 Angkot～】

これまでインドネシア国内での移動は自動車や飛行機のみであったが、今回の出張で初めて様々な種類のバスや乗合タクシーに乗ることができた。中でも、乗合タクシー (Angkot) は面白い乗り物であった。Angkot はバスのように決まったルートで毎日随時運行されている。しかし、停留所はなく、そのルート内であれば自由に乗り降りすることができる。また、料金も安いので、多くのインドネシア人が利用している。今回訪問したチボダスも山道に家が並んでいる地域であったので Angkot が重宝されているようであった。料金は 1.5km 程度で Rp3.000 (約 23 円)。車内は横長 2 列のシートで多い時は 12 人ほどの人と乗合になった。

